

整形外科

(1) 2年間の初期研修で到達可能な臨床レベル

外科系初期研修教育においては、見逃さない診断と初期対応が重要と考えています。初期対応の中では頭部外傷、四肢の切創・骨折が一番多く、脳外科と整形外科は絶対に選択されるべき科と考えています。救急外来での創傷処置、シーネ固定、コンパートメント症候群の対応などは全当直医が習得すべきです。整形外科では上記を念頭に一般および救急患者の基本的診察法、基本的臨床検査法、外傷の処置（骨折・脱臼、開放創の処置、ギブスシーネ（副木）・ギブス固定など）、外来診療、入院管理および手術助手を行っていただきます。初期研修で経験すべき症状のうち腰痛、四肢のしびれ、関節痛、歩行障害の各項目に関してより専門的な指導を受けることができます。2年間を通じて当科で3ヶ月以上研修を選択された場合には、大腿骨近位部骨折、足関節脱臼骨折などの頻度の高い外傷疾患の治療が責任指導医のもとに執刀に準じた形で行えるようになります。

(2)後期専攻医（専門医研修）へのつながり

当院は京都府立医大整形外科の専門医研修プログラム協力病院（大型総合病院）となっています。当院研修履修者が整形外科を希望される場合には大学病院での研修を6カ月～12カ月履修した上で、希望すれば当院での研修（1年～2年）が可能です。その場合はよりシームレスに当院で研修を行う環境を得ることが出来ます。年間1200例を超える整形外科手術症例を有する病院は京都市内でも大学病院に次ぐ規模であり、予め当院で初期研修を開始することにより多くの症例を効率的に経験出来ます。

リンク参照：[京都府立医科大学 整形外科 臨床研修・専門医研修](#)